

小・中学校科学展覧会、小学校創意工夫展覧会 実施委員会

第71回滑川市小・中学校科学展覧会には51作品、第56回滑川市小学校創意工夫展覧会には53作品が集まりました。

	出品点数	金賞	銀賞	銅賞
科学展覧会	51	3	16	32
創意工夫展覧会	53	2	16	35

9月18日(水)に各校から1名の審査員に集まっていたいただき1次審査を、19日(木)には3名の審査員による2次審査を行いました。

創意工夫展覧会 審査

1次審査では、審査員全員で創意工夫作品を1つ1つ見ていきました。家族の役に立ちたいとの思いから生まれた作品、夏休みの思い出を形にした作品、廃品を利用した作品等、アイデアがあふれる作品がたくさんありました。その中から、銀賞候補16点を決めました。

翌日の2次審査では、審査員に銀賞候補の作品を見ていただき、2点の作品が金賞に選ばれました。

- ・将棋とリバーシ両方を楽しむことのできる盤
(小学校3年生)
- ・快適に洗濯するためのエプロン
(小学校5年生)

科学展覧会 審査

1次審査では、3つのグループ(小学校下学年・小学校上学年・中学校)に分かれ審査を行い、銀賞候補16点を決めました。

翌日の2次審査では、審査員に銀賞候補の作品を見ていただき、3点の作品が金賞に選ばれました。



1次審査



2次審査

科学展覧会で金賞となった3作品とその講評です。

・オオカマキリの体の色の大けんきゅう（小学校3年生）

身近な生活の中から興味のあるものをテーマとして研究しているところがよいです。カマキリの幼虫の色が緑色から褐色に変化したことに疑問を感じ、探究を進めています。一匹一匹に名前を付けて、継続して色の変化を調べています。丁寧に数多くの収集した標本や記録、写真からは、カマキリが大好きという気持ちが伝わってきます。来年は、緑色の成虫にするための研究を続けられるようで楽しみです。

・シャボン玉研究パート3 ネバトロはわれない？（継続）（小学校5年生）

2・3年生のときの研究をもとに、新たな課題を見付け、その解決のための研究を行っており、一つのことをとことん探究していこうとする姿勢はすばらしいです。

過去の研究結果から仮説を立てて実験方法を考えていること、身近なものからできるだけ多くの素材を使って実験していること、条件の統一や比較の基準を明確にしていること、実験を10回行いその平均値で結果を出していることなど、科学の研究として大切なことを押さえて取り組んでいます。

実験1の結果からさらに課題を見付け実験2へとつなげており、この研究全体の結果から次の課題や別の視点での研究にも目を向けているので、今後の研究に期待したいです。

・なぜ起こる？ 液状化現象の仕組み（中学校3年生）

液状化現象について、よく考えながら様々な実験を行っています。特に、縦揺れと横揺れの効果の違いなどは、興味深いです。

また、液状化現象を止めるためにダイラタンシー現象に着目し、地中の水をぬく実験を行った点も評価できます。

パネルも見やすく、グラフを使って非常に分かりやすくまとめています。

旺盛な探究心と豊かな創造力が感じられた科学展覧会の作品。児童の独創性が感じられた創意工夫展会の作品。今年度も、子供たちの努力が結集した展覧会となりました。